

仙台・文化財サポーター会活動記録（保存継承部会）

○開催日 2026年9月18日（金）

13時～15時

○参加者 17名

○テーマ

菊地さんによる『仙台のダークな伝承を探る』シリーズを再開。

今月と来月の2回に分けて5ヶ所を巡見します。

今回は、

①「八地蔵伝説」の新寺 正雲寺

②「猫塚伝説」の連坊 裁松院

③「猫塚伝説」の南小泉 猫塚古墳

の3ヶ所を巡見しました。

①「八地蔵伝説」の新寺 正雲寺

○正雲寺

浄土宗の寺院で新寺にある正雲寺は、慶長15年（1610）開山で、開山時は岩城の専称寺の末寺でしたが現在は増上寺の末寺となっています。

境内には、かつてこの地が八塚と呼ばれた由来となる伝説につながる八地蔵があります。

○八地蔵伝説とは

「昔、七北田の処刑場にて重罪人の火焙りの刑を見た8人の子供たちが、遊びでそのまねごとをして仲間の1人を罪人に見立てて縛り上げ、藁などを集めて火をつけたところ思いのほか火は燃え上がり、なすすべもなくその子は本当に焼け死んでしまった。

子供たちはどうすることもできず、亡骸をそっとそこに埋めて帰ったが、その後夜になって大人たちが探し当て事の次第が明らかになった。親たちは供養のために身代わりの8つの地蔵を建立して弔ったという」

現在、六地蔵の後ろには首の欠けた8体の地蔵が、そっとただずんでいます。

○正雲寺



○境内西側にある六地藏



○六地藏の後ろには首の欠けた 8 体の地藏が！



②「猫塚伝説」の連坊 裁松院

○裁松院

曹洞宗、耕徳山裁松院（さいしょういん）は、伊達政宗の祖母久保姫（裁松院）の位牌を納めた牌寺です。政宗は裁松院が亡くなった根白石に宝積寺（ほうしゃくじ）を建てましたが遠いため、慶長 6 年（1601）に裁松院を創建して位牌を納めました。

境内には仙台の地名の起源と言われている千駄仏を納めた千仏閣があります。

○猫塚の伝説とは

文久 3 年（1863）以前から伝わる石碑「猫塚」があります。建造当時は彩色として猫の目に金箔、猫の首輪に赤の彩色などが施されたとても豪華な石碑でした。

この猫は「追廻し川前九軒丁」に住んでいた御馬乗（おうまのり）草刈昌之丞（くさかりまさのしょう）という武士に飼われていた猫でしたが、隣屋敷の殿様の飼育していた鶏を食い殺してしまった。それがために隣屋敷の殿様の怒りをかって、とうとう日向ぼっこしているところを鉄砲で撃ち殺してしまった。

飼い主昌之丞はこの猫を寵愛していましたが相手が殿様なので抗議も出来ず涙ながらに猫塚を作り供養したと伝えられています。

その後、殿様の屋敷では次々と怪異が起こり一族が死に絶えたとも伝えられています。

○ 栽松院山門



○猫塚の石碑



○猫塚石碑に描かれている線画を再現したものと思われる



○「清女」は猫の名前でしょうか



○境内には仙台の名木（樹齢 1000 年）に指定されている檜の古木（政宗公遺愛の檜）があります。政宗公が仙台城から拝むための目印にしたと歴史に詳しい平山さんから伺いました。



③ 猫塚伝説 南小泉 猫塚古墳

猫塚古墳は南小泉の少林神社（わかばやし じんじゃ）にあります。元は直径 7～8 メートルの前方後円墳があったとされていたが早くに破壊され遺物も残っておらず詳しい事も分かっていません。跡地に現在の少林神社が建ち、猫塚も建てられた事から「猫塚古墳」と名付けられました。

○猫塚の伝説とは

「昔、この地に住んでいた侍夫婦が一匹の三毛猫を飼っていた。猫はたいそう可愛がられていたが、ある日のこと、妻の着物の裾を噛んで離さずに大きな唸り声をあげ続ける様になった。妻に襲いかかると思った夫が危険だと思って猫の首を刃ではねると、首は天井に飛んで妻に襲いかかろうとしていた大蛇に噛みついた。

夫婦は危険を知らせてくれた猫を不憫に思い、この地に塚を建てその猫を手厚く葬りお参りするようになった」

この猫塚の伝承に因んで、10月22日には「ねこまつり」が開かれるそうです。

○少林神社の立派な鳥居



○境内にある猫塚古墳の標柱。奥に見えるのは猫塚神社



○10月の活動は、

①鶏伝説 根岸 宗禅寺

②花壇 銭形不動尊

の2ヶ所を巡見する予定にしています。

来月はどんなダークな伝承に出会えるでしょうか。来月の部会も楽しみです。

以上 本多正明（記）